

公立病院経営改善事例集(案)の概要

第1章 公立病院の経営改善事例

経営状況が良好である公立病院などの33医療機関に対して経営改善取組事例の調査を実施し、回答の中から10病院の取組事例を紹介。

(1) 経常損益が黒字の事例

○国保藤沢町民病院[54床](岩手県)

地域包括ケアの実践により在院日数を短縮するとともに、高性能医療機器の整備により高度な検査を実施。特に訪問診療を積極的に実施。

○綾川町国保陶病院[63床](香川県)

地域包括ケアの実践や診療時間の工夫により多数の患者を確保するとともに、業務の委託化や非常勤職員の積極的活用などにより人件費を抑制。

○市立大森病院[150床](秋田県)

病棟再編成と施設基準の見直し等による病床利用率の改善。また、夕暮れ診療など患者のニーズを踏まえた診療形態を採用するとともに地域包括ケアを実践。

○尾道市公立みつぎ総合病院[240床](広島県)

地域ニーズに応えた地域包括ケアの実践による多数の患者の確保と、計画的な設備投資(企業債残高は年間収益の半分未満を原則)の実施。

○三豊総合病院[519床](香川県)

地域のかかりつけ医と連携し紹介患者の増加に努めるほか、退院調整チームの取組により、高い病床利用率の確保と在院日数の短縮化を両立。また、救急・透析などの政策的医療を積極的に提供し、外来患者単価が増加。

(2) 近年において経営形態の変更を行った事例

○岡山県精神科医療センター[252床](岡山県)《地方独立行政法人化》

精神病院が地方独立行政法人化により、県民ニーズに沿った政策的医療の実施や必要となるスタッフの大幅増員など、医療の質と採算性の向上に資する運営が実現。

○那覇市立病院[470床](沖縄県)《地方独立行政法人化》

病院主導のもとで地方独立行政法人に移行後、医療スタッフの大幅な増員を行い、各種診療報酬加算を積極的に取得し増収を図るなどの弾力的な病院運営が実現。

○東栄町国保東栄病院[69床](愛知県)《指定管理者制度の導入》

退職者補充の抑制と公設民営化の導入に伴う新たな給与体系での非正規職員の正職員化が、人件費関連経費(職員給与費+委託料)の節減などにつながり、経営が改善。

○公立黒川病院[170床](宮城県)《指定管理者制度の導入》

医師不足などによる危機的な経営状態に対応するため、経営形態を公設民営化に変更し、医療スタッフを確保(常勤医師:⑩7人→⑳12人)したことなどにより、患者数が大幅に増加。

(3) 近年において経営形態の変更と併せて医療機能の再編・ネットワーク化を行った事例

○山形県・酒田市病院機構[760床](山形県)《地方独立行政法人化》

医療機能が重複する県立、市立病院の地方独立行政法人化による経営の統合に伴い、診療科目・病床数などの再編はもとより、医療資源の有効活用が可能となり、診療単価増や経費の節減が実現。

第2章 経営改善の主な取組事例

経営改善取組事例の調査の回答の中から、第1章で紹介した10病院以外における主な取組事例について、取組の項目別に紹介。

第3章 医師確保対策の主な取組事例

都道府県、市町村に対して医師確保に係る取組事例の調査を実施し、回答のあったものから主なものについて紹介。

第4章 公立病院の施設整備の状況

平成11～20年度に供用を開始した公立病院の施設整備の実態調査を実施し、回答のあった230病院の建築単価の状況等について紹介。